

○「さあも一度探りませう。そして先生の探つたのと同じのが探れたかどうか較べて見ませう」と、又初めましたが、狡猾な子は私の後についてばかり居ました真面目な子は隈なく探しますし真面目の中にも遠征するのと、近所を丁寧に探すのとございました。

此處でも亦個性を知る事が出来ました。今度は二三普通の物の名を教へながら較べました。

○「これはクローバです。あひましたか△ハイ」

○「これはたんぼです。あひましたか」

△「ハイ私これで二度！」

○「これはあかぎです。」

△「どれ先生、これですか、うれしい三度よ！」

四度五度おもしろく此較する事が出来ました。

丁度お辨當の時間も参りましたので

○「さあ歸りませう」と申しますと、

△「先生お辨當！早いわねえ先生又あしたね」お手

水を使つて、きれいに拭れた食卓に著きました。

静に埴生の宿を唱つてやりましてから大きい子

の世話で皆静にお辨當頂いて又外に出ました。

今度は砂場でお山をこしらへたりお池だの畑だの

作らへて先程とつた草を植ゑ比較的静に遊ばせて

一時におかへりに致しました。

兒童の救急手當法

醫學士 藤 井 季 旭

これはフレイベル會主催の小兒救急手當講習會の講義筆記を訂正せるものであります。實地に行つて見るか若くは繪畫を挿まなければならぬ様な術式は遺憾乍らこゝに省略しました。例へばジルベステル氏人工呼吸法の如きは其の一例であります。其の他講習の際にお話し致しました理論めいた所も同じく割愛することに致しました。

卒倒

卒倒といふのは、眼を廻すことで、急に腦貧血が起る爲であります。

症状 身體の表面が蒼白になり氣を失ふことがあります。其の起つて參ります時には、身體が何となしに衰弱を覺え、不安を感じ、苦しくなつて來、眼前が闇くなり、耳がガン／＼鳴つて來、物體がぐる／＼廻つて來る。身體は冷汗でびつしよりになり、顔、唇は死人の様に青ざめ、筋肉が急に緊張が弛む爲、卒然として大地に倒れるのであります。卒倒の名はこれから起つたのであります。が、又徐々に倒れることもあります。

此の時卒倒者の四股を觸つて見ますと、何等抵抗を感じません、全く弛緩して居ります。呼吸はあるか無しかに微弱に、脈は觸れにくい位になります。

卒倒中多くは意識を失ひ、痛覺、視覺、聽覺は

全く止み、瞳孔が開いて光をあて、見てもそれが小さくはなりません。

斯ういふ有様が數秒から數分續いて、徐々に復た眼をあき、呼吸を吹きかへし、顔色が赤味がさして來て、意識が確かになつて來ます。

原因 千差萬別の原因がありますが、急に血を失ふた時、身體の内水分を失つた時、心臟病や神經過敏症に罹つた時に起り、劇場や寄席の様な多人數の寄合つて空氣の悪くなつた時、着物を堅くしめつけて呼吸がしにくい時、その他長い間起立して居るとか、行軍の時とか、酷い痛とか、驚愕とか、恐怖とかの様な精神感動によつて誘發せられます。

其手當 身體を水平にし、頭部を下げ、衣服、帶などをゆるめ、窓を開け、障子、唐紙をあけ放し、家の内ならば冷しい部屋、戶外ならば木蔭の所へ移します。

輕症の場合には皮膚や粘膜を刺戟して呼吸運動に心臟の機能が回復する様に努力します。之を行ひますには顔、胸に冷たい水を灌注し、冷水、醋水、ブランデーの類で、額や額顫部を摩擦し、手掌、足蹠を刷毛の類で摩擦するのであります。重症の場合には以上の手當の外、人工呼吸法を行ふ必用があります。人工呼吸法は後に申上げることによります。

卒倒の所稀に嘔吐が來ることがあります。此の時は上體を少し高め、頭を少し側方へ、濕らしたガーゼを指に巻きつけて卒倒者の口腔、咽頭を拭ひます。

卒倒者が氣がつき、物をのみ込むことが出来る様になつてから茶殊に濃いよいお茶、葡萄酒、ブランデーの様なお酒類、 Hoffman 氏液(酒精一分、エーテル三分よりなる液體)を飲ませます。Hoffman 氏液は大人ならば十滴から十五滴計り、小供

ならば年齢相當の分量例へば七、八歳の小兒ならば四、五滴、十一、二歳ならば七、八滴を砂糖水の中に滴下して飲ませます。

氣が附いたならば徐々起きなければなりません。急に起しますと復た卒然する懼があります。

人事不省

これは卒倒と同じ性質のもので、卒倒のもつと酷くなつたのが人事不省であると云つてよいのであります。

症狀 人事不省に陥つた者は、腦の機能が全く止つて意識がなくなり、それが一時性のこともあり、又長く續いて昏睡の状態に陥つて、呼吸の有り無しさへも不分明で、殆んど死人同様と云つてよいやうになつて來ます。これがもつと酷くなる時、即ち假死に陥るのであります。人事不省の者は眼が見えず、耳が聞えず、痛い、痒いの感覺がなく、身動きもせず、死人の如く横つて昏々

として長夜の眠に陥るので、試みに其の手足を持ち上げて手を放せば棒でも落ちる様にばつたり落ちるのであります。唯微弱な呼吸、脈搏によりて生きて居ることがわかる位であります。

原因 其の原因には、いろいろあります。けれども、主として、(1) 卒倒より来るもの、(2) 高い處から落ちた時又は廊下の廻り角等で衝突して頭を打つた時に起る脳震盪、(3) 熱のある傳染病、(4) 癎變、(5) 體內に生ずる毒の爲めの中毒即ち自家中毒例へば糖尿病、腎臓病、(6) 酒の中毒等から起るものであります。

其手當

種々の病氣により人事不省が来る故一定の手當がありませんが、概して申しますると

(1) 容勢を正しくし衣服の緊迫をゆるめ顔色が蒼白であれば頭を下げ、反對に顔色が赤ければ枕を高くすること、(2) 吐氣のある時は頭を横にするこ

と、(3) 身體に傷の付かないやにして、疊の上になかじ、(4) 呼吸がとまり相なら人工呼吸を施すのであります。

尙、脳震盪より來た人事不省に就いて、特に注意すべきことは、前にも申したやうに、高い處から落ちた時、廻り角でぶつかつた時等に起るので、酷く目を廻して、必ず嘔吐を催します。故に一般の、人事不省の場合には、戸外なれば木蔭の場所に移して、其處で手當をすることが大切であります。が、脳震盪の場合にはこれと反對で、決して動してはならないので、倒れた其の場所で手當を施さなければならぬのであります。そして、上向に寝かせて頭を高くし、帯をゆるめて、血の出る處や、骨の折れた處の有無に注意して、若しありましたならば、相當の外科手當を施さねばなりません。又、頭は氷嚢か冷水器法にて冷すことが大切であります。一般に人工呼吸は、身體に傷のない場

合に限つて行ふのであります。

人工呼吸法

人工呼吸とは、自然には出来ない呼吸を人の助けによつて、体内の呼吸をなましむるものであります。其の方法には、ホワルド氏の法といふのもジルベステル氏の法といふのと二つあります。普通に行はれて居るのは第一のホワルド氏の法で、仕方も簡便で、一人でなし得る方法でありますから、こゝでは第一の方法に就いて説明し、第二の方法は説明だけでは稍々難解の處もあるように思はれますから省略する事に致します。

先づ、患者の衣服をゆるめ、又は脱がせ上向に寝かせて、腰と肩との間にある窩みの處へ、衣物をまるめて入れ、身體を水平にして置きます。これから人工呼吸を施すのであります。がそれより先きに舌を引き出し、手巾か何かで縛つて頤の所へ固定して置くのであります。

次に施術者は患者の上にまたがつて、拇指を心窩部に當て、他の指は肋骨弓の處へ當るようにして、二秒おき位に其の處を壓しつけるのであります。つまり壓しつけて居る時間が二秒位、離して居る時間が二秒位づつで、都合一分間に十五回位になる譯であります。

總て人工呼吸は、息が聞こえるようになるまで中止してはならないので、醫者の來るまでは一時間でも二時間でも續けて行はなければならぬのであります。

假死

假死に陥る原因にも種々の場合がありますけれども、假死の患者と云ふものはさう澤山に起きるものではなく、或は皆様とは没交渉の事柄かも知れませんが、然し一生の間には、何時さういふ場合に遭遇せないと限らないものですから、一通り説明を試みて置きます。

もと／＼卒倒と人事不省と假死とは、原級、比較級、最上級の地位にあるものであります。けれども、此の三つは恰度輪のようになって居まして、何處が卒倒と人事不省の境なるか、何處が人事不省と假死との境なのか明らないのであります。假死が一般上になりますと、いよ／＼本當の死になるので、これを醫著の方では眞死と申して居ります。

症狀 假死の現象は千差萬別であります。全體から云ふと、息が絶え／＼になつて、殆んど氣息がないと云つてもいひ位に達して居ります。脈は絲脈と云つて極く微かなものが手に感ぜられるばかりであります。假死の感覺の有り無しを検査するにも薬を呑ましたり、蠟燭の蠟をたらしたりして、辛じて知ることが出来る位であります。

假死と眞死とを見定めるには、全くに死に陥つた時の有様を申上げて、それから推して考へて頂

きます。眞死には第一死斑といふ青赤色の斑點が、身體の下に向つた方に生じます。第二には手足が固く強張つて居る、これを死後強直と云つて居りますが、ある宗教では死骸へ土砂をふりかけるのは、此の死後強直を除く爲めに外ならぬのであります。

第三の證候は眼であります。眼の緊張が失はれて、指で壓すと、指の跡が附きます。第四は腹部が腸の腐敗の爲めに、穢い色を呈します。又、一種の厭やな臭氣が發します。これを死臭と云つて居ります。總て斯ういふ腐敗が眞死に陥つた證據なのであります。かうなれば、もう蘇生の見込みはないのでありますから、假死の間に於いて、出來得る限りの手當を施さなければなりません。

其の原因

假死の原因には種々ありますけれども、其の主なるものは、(1)溺水、(2)首く／＼り、(3)首を締めら

れた場合、(4)土の下に埋られた場合、(5)有毒の瓦斯を吸ふた場合、(6)凍へた場合、(7)電氣に觸れた場合、(8)隔病、日射病、熱射病、(9)やけど、(10)物を呑み損つて氣管の方へ入つた場合等でありまして、小學校や幼稚園では殆んどないと云つてよいのでありますけれども、然し決してないと云ふものではないのでありますから、其の手當を一通り申上げて置きます。

(1) 溺 沒

症狀 これは水や土が氣道へ入つて、息がつまつた爲めに起る假死であります。顔が紫色がかつた赤色に變じて來ます。この色をチアノーゼ (Cyanose) と云つて居りますが、恰度寒い風に當つた時に變つて來る唇の色のようなのであります。眼の周圍には青斑が出來、唇は紫黑色になり、皮膚の光澤を失ひ、口や鼻の中に泡沫を滿ち氣管や肺や、胃に水が這入つてゐる。水の中へ落ちて

から氣を失つたものだと、口や鼻から水を吐き、水に落ちない前に氣を失つたのは水を吐かないものであります。此の者は顔色が蒼白く、弛緩見え、口中には少し許りの泡沫を含んでゐる。水を呑まない方が加ける望が多く、又、時間によつて助け得る望も違ふのですけれども、然し三四時間入つて居ても、未だ眞死に陥らないことが往々にあるのですから、出來るだけの手當をせなければならぬのであります。人工呼吸の如きも四時間以上は、間斷なく續けなければなりません。そして尙、息をふき返へさなければ、その時は本當に死んだものと思つていゝのであります。

其手當

水から引き上げた者を取扱ふ上に要する注意は衣類を脱がして、心窩部を取扱者の膝に當て、頭を下げて施術者の手掌を溺没者の額にあて、首をそらせ、右の手で溺没者の脊を壓しつけるので

あります。さうすると、呑んで居る水を吐き出しますから、今度は人工呼吸に移るのであります。勿論施術に先だ、口中や氣道に這入つた泥を清潔に拭ひとつて置かねばなりません。人工呼吸を行つて呼吸が出来るようになつて來ましたなら、今度はフランネルのやうな衣類で全身を摩擦するのであります。其の擦り方は、手足や頭の方、即ち心臓に遠い未消部から心臓の方へ向つて、逆に擦るのであります。そして、足の所へ湯たんぼ、温石をあて、だん／＼氣息が確になつて來、物が飲める様に氣がついた處で濃い茶なり、コーヒーなりを吞まするのであります。悪い茶は餘り效能がありませんけれども、玉露の様な良い茶には、コフニンといふものが多量に含まれて居まして、これが心臓には非常によい藥なのであります。

(2) 縊首

縊首といふのは索繩を頸に纏絡けてぶら下り、

自分の重み頸を緊扼して窒息して死のを云ひます。又扼首と、絞首との二種があります。扼首とは手や物で喉頭を壓しつけて絶息せしむる場合で、絞首とは繩で締める場合をいひます。日本では小學校生徒の自殺などは殆んどないのでありますが、西洋ではこれが非常に多いのであります。參考の爲めに其の手當を一通り説明して置きます。其の手當先づ、木の枝などへ繩を掛けて首をく／＼つて居る場合でありますと、縊首者を一方の手で確乎抱いて置いて繩を切り放すのであります、其の儘繩を切りはなしてはならないので、繩を切りはなすと往々身體に傷がつきますから、さういふ事のないやうに十分注意が必要であります。

次に爲すべきことは、粘膜を刺戟することです。刺戟とは一の機關を外からつゝいて働かすやうにすることを云ふのであります。それには紙捻のやうなもので鼻腔をつゝいたり、確砂精を

手巾にたらしめて鼻の所へ持つて行き筆の様なもので喉頭をくすぐり、足の腓腸へ芥子泥を貼るのであります。その他氣通しのよい所に移し、上身を少し高くして臥かせをして人工呼吸を盛んに行はなければなりません。

(3) 埋 沒

これは山や、家が崩れたりした爲めに其の下になりて氣を失ふのであります。これは出来るだけ早く掘り出すことは勿論、次に口や鼻や耳や眼の中に入つて居る石礫を綺麗に出してしまつて、骨の挫けた處がないかといふことを、十分に検査して、さういふ傷害のないことを確めてから他の場所へ動かすことが大切であります。骨の挫けて居るのも氣附かずに、無暗に動しますと、折れて居る骨が食い違ひになつて、治療に困難を來すのであります。次に人工呼吸を行ふのであります。

(4) 瓦斯に因る窒息

これは有毒なる瓦斯を吸つた爲めに起るものであります。又燈用瓦斯のみではなく、地下室、古井戸、酒藏等の中へ入つた場合にも、よくあることなのであります。勿論、燈用瓦斯の活栓を開けて置いた爲めや、ストーブの爲めにも毒せらるることが、まゝ有ること、佛蘭西のゾラと云ふ有名な小説家が夫妻共に、其の爲めに生を失つたといふこともある位でありますから、瓦斯の活栓は毎日非常に注意をして、嚴格に鎖して置かなければならぬのであります。

瓦斯の爲めに窒息する者は、初め呼吸が弱く、頭痛がして來て、目が廻り、遂には運動の力もなくなり、感じもなくなり、そして顔がはればばつたくなつて、紫色に變じて來ます。眼球結膜が充血して、瞳孔が黒く變色して居ります。そして脈がとぎれ／＼になつて來ます。總て脈の微かになつてとぎれて來るのは、心臟の弱くなつた證據

で、又脈のとぎれるのを醫者の方では結代と名けて居ります。脈がだん／＼と少くなつて來すと、仕まいには痙攣を起して、假死に陥つて遂に眞死に到るのであります。

有毒瓦斯の籠つて居る室へ入るには、室へ入る前に十分深呼吸をして息を止め、酢を浸したハンカチを口に當て、先づ第一に戸若しくは窓を開くのであります。燈火其の他の火の氣のあるものを持つて入ることは絶対に可けないので、ダビー氏のランプといふような特別の仕掛けをしてあるものは差支ありませんが、普通の家にはこれを備へてあるといふことは餘りありませんから、總て火を持つて入ることを嚴禁した方がよいのであります。

其手當

先づ第一に窒息者を室外の空氣の流通よき場所へ出し衣類を脱がせて、顔や胸に水をふり掛ける

か、又は冷水の纏絡を施すのであります、臍腸部や、背部や胸部に芥子泥を塗り、又礮砂精の様な臭の強い薬をかせます。若し室外へ運ぶことの困難な場合は室内の空氣を出来る限り入れ更へるやうにせなければならぬのであります。

次に、頭を高く寝かし、若し氣息が絶え／＼になつて居ましたならば、人工呼吸を施すのであります。それで氣がついて來ましたならば、今度は前と同じく、いろ／＼の興奮劑を吞ましめるのであります。茲に最も注意すべき事は、患者を眠らせないやうにすることでありませぬ。或は聲を掛けるとか、お茶を吞ますとか、葡萄酒を吞まするなどして、努めて眠らせないようにせなければなりません。

以上は燈用瓦斯の洩れた場合であります。古井戸の中へ落ちた者を助けに入るような場合には古井戸の底には、いろ／＼な瓦斯が溜つて居るも

のですから、先づ其の有害瓦斯を發散せしめてしまふことが必要であります、それには、傘のやうなものを繩に結びつけて、上げ下げして空氣の流通をつけて、それから入るやうにしなければなりません。

次に、梯子を掛ける事は勿論三筋の繩を用意して、一は井戸へ入る人の背をたすき掛けに結び、一つは自分の手首を結んで置き、一つは落ち人をくゝる爲めに要する太い繩であります、又、手首を結んで居るのは、引き上げる時の報知其の他の用をなすものであります。引き上げてからの手當は前と同様であります。

(5) 凍 涸

寒い時に戸外へ出た爲めに死ぬといふやうなことは普通の人には餘りないのであります、非常に疲勞をして居る人とか、酒に酔つて居る人が、寒さに襲はれながら、道に倒れて眠つてしまふと

か、或は探險等に行つた人に往々あることであります。これは手、足、唇、鼻等身體の末梢部分が紫色に變色して、四肢がこぼつてゐて、耳翼、鼻尖、指趾はまるで氷塊の様につめたく、堅く、脆くなつて居ります、脈が僅に觸れる位のもので、呼吸が微かになつて居ります。

其の手當

此の場合に、一般の人から考へますと、直ぐに温い室の中へでも入れて、身體を温めてやればよいと思ひませうけれども、それは反つて可けないので、この場合には、衣類を脱がせて、雪の中へ埋めて、顔面を除く外は悉く雪で掩ふのが一番良法なのであります。たゞ此の時に注意すべきは末梢の部分が凍えて居る爲めに、傷が付き易いので、其の取扱を町重にすることでありませう。

かうして暫く雪の中へ埋めて置きますと、強張つて居る身體が段々とやわらいで來ます。すると

今度は水風呂の中へ入れるのであります。温度は攝氏十五度位が一番適當で、恰度水道の水よりも少し温い位の温度であります。若し水風呂に入れることが出来なければ、同温度の水で全體を濕布するのであります。そして二時間か三時間續けて置く間に、だん／＼温度を高めて来て、攝氏の卅度位にする。今度は水から上げて、寢床に入れるのです。これにも温い床は可けないので、冷い床に入れ、そして全身を冷いもので磨擦します。かうして段々と温めて行つて、室の温度も共に、普通の温度に復して行くようにせなければなりません。これで氣が確になりましたならば、今度は葡萄酒の他のアルコールを含んだものや、お茶コーヒー等の刺戟劑を吞ましむるのであります。凍涸は數時間或は二三日経つた後に氣のつくことすらもある位ですから、成るべく永く手當をするのとが大切であります。

新しい玩具

九段の偕行社で懇親會のあつた歸りに、一寸フレーベル館の店さきへ立寄つて見ました、いろ／＼新しい玩具が出来て居た中に二つ三つ目にとまつたものを御紹介しませう。

巻出掛圖——幼稚園でお話をする時に、繪の方でもお話と共に、次から次へ繰り出して呉れる様に出来たらとば、誰も屢々思ふことです。現に岸邊氏の東洋幼稚園で、此の御工夫の出来て居るのを拜見したことがありました。此の巻出掛圖は即ちその需用に應ずるものであります。巻出用の框は額縁風に出来て居て體裁も可なりよし、堅牢にも出来て居ます。その定價壹圓。之れに使ふ巻出圖は、其時出来て居たのは大小尉の五枚づゝき一卷でした。が、肉筆で布表裝がしてあつて定價貳圓。繪は注文次第どんなものでも調製いたしますといふ話でした。

球投競争——之れは布製の衝立狀のもの、中央に孔をあけ、その後ろが益になつて居て、之れを狙つて紅白の小球をなげる。その布にベースボールのキャッチャーの繪が大きく描いてあつて、その孔の處が、丁度ミッドで球を受ける態になつて居ます。又室内でも外でも、自由に運搬し得るようになって居る處が便利です。甲種は六尺に四尺の大きまで五圓。乙種はずつと小形になつて五十錢。

大形ま、ごと用具——臺所道具から膳碗類一揃で九十五錢、在來のよりは大形な處が新しいのです。